

(技術名) グリホサート抵抗性オヒシバの発生分布と数種除草剤による防除効果							
(要約) <u>グリホサート抵抗性オヒシバ</u> は、 <u>サトウキビ畑</u> 、水田、果樹や野菜ハウスの周縁、住宅地および道沿いにおいて発生が認められ、防除には <u>グルホシネート P ナトリウム塩液剤</u> と <u>アシュラム液剤</u> が有効である。							
農業研究センター名護支所・作物園芸班 農業研究センター・作物班				連絡先		0980-52-0052 098-840-8505	
部会名	作物	専門	栽培	対象	サトウキビ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

近年、イネ科雑草のひとつであるオヒシバ (*Eleusine indica*) において、グリホサート系除草剤に抵抗性をもつ個体が出現し、世界的な問題となっている。グリホサート抵抗性オヒシバは、日本でも報告されており（永井ら 2015）、沖縄県のサトウキビ畑においても発生が確認され、防除が難しい状況となっている。そこで、今後の雑草防除策を講じていくために、本県におけるグリホサート抵抗性オヒシバの発生実態を調査し、併せて、殺草効果の高い茎葉処理剤を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. グリホサート抵抗性オヒシバは、沖縄県のほぼ全域のサトウキビ畑、水田、果樹や野菜ハウスの周縁および住宅地や道沿いにおいて発生が認められる（図、表1）。
2. 発生が確認された畑で数種類の茎葉処理剤を散布した結果、グルホシネート P ナトリウム塩液剤とアシュラム液剤は殺草効果が高く、グリホサートカリウム塩液剤は殺草効果が認められない（表2）。
3. グルホシネート P ナトリウム塩液剤において、グリホサート抵抗性オヒシバの防除効果が高い散布薬量は、10a あたり 1000～2000ml/水量 100L である（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、難防除雑草のグリホサート抵抗性オヒシバの防除に活用できる。
2. グリホサート抵抗性オヒシバの発生調査は、2018～2019 年に行ったものである。未調査の地域が残っており、今後の調査によっては本報告よりも発生地域が広がる可能性がある。
3. 発生実態調査では、グリホサート系除草剤散布後にオヒシバのみが生存し、他の雑草が完全枯死している例を「グリホサート抵抗性オヒシバの発生あり」とした。そのため、散布時期や散布量、薬剤名は一様ではない。
4. 現在、グルホシネート系除草剤（グルホシネート P ナトリウム塩液剤、グルホシネート液剤）のサトウキビへの適用拡大試験、残留農薬（GLP）試験が実施されている。

発表論文等： 比屋根ら(2017)、安斎ら (2020) 日本雑草学会にて発表